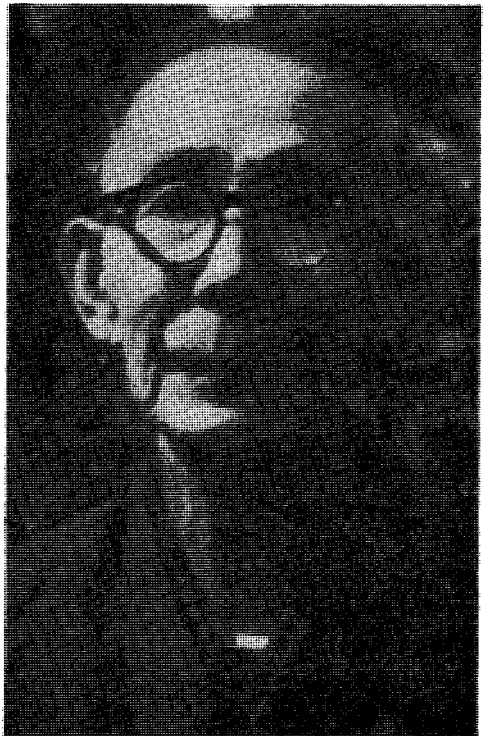


真保一輔先生をいたむ

長年越後北陸地方の生物学の発展に努めてこられた先生は、昭和39年7月17日逝去されました。再生不良性貧血症で5月頃から入院加療中でしたが、7月10日の大地震のショックが病状悪化を早めたときいております。大正8年新設されたばかりの新潟高等学校（旧制）に赴任され、昭和34年新潟大学を退官されるまで、40年の長きにわたって生物学教育に力をそそがれ、多くの研究者や教育者をそだてられました。先生ははでなことはきらいのようで、あまり人の先に立つてリードするようなことはされなかつた。温和でやさしかつたけれど、一面自分自身にきびしいという態度を持つておられた。これは第一高等学校の学生時代、内村鑑三先生に私淑してつちかわれた、無教会派のクリスチャンとしての信念からきているものと思われます。先生は植物寄生菌の研究を専門とされたが、新潟地方の植物分布の研究にも力を入れられ、新潟地方の貴重な研究資料を数多く発見されている。昭和8年から13年まで「自然研究」を発行され、佐渡や粟島の植物誌をまとめられた。(51p.につづく)



(49p. よりつづく) この雑誌の中には植物学や動物学の研究者を育生しようとされた，努力のあとがよくうかがえる。

明治20年12月25日，新潟県中蒲原郡庄瀬村に生る。明治42年，第一高等学校卒業。明治45年7月，東京帝国大学植物学科卒業。大正8年6月，新潟高等学校教授。昭和21年退官。昭和33年，新潟大学教授。昭和34年3月退官。同新潟大学名誉教授。(山崎敬)